

2017年度

保育課程

保育理念	すべての子どもたちを人として尊び、そして今が幸せであり希望あふれる未来を創造する支援を行う (保育方針) 小規模だからできる家庭的環境作りと個々に合わせたきめ細かな保育を実践する
------	--

発達過程		I おおむね6ヶ月 未満	II おおむね6ヶ月から 1歳3ヶ月未満	III おおむね1歳3ヶ月から 2歳未満	IV おおむね2歳	V おおむね3歳	VI おおむね4歳	VII おおむね5歳	VIII おおむね6歳				
クラス編成		なすな・ぶち なすな・たくみん1			すずな・ぶち すずな		ききょう・ぶち ききょう・たくみん2		なでしこ 1	なでしこ 2・たくみん3		なでしこ 3	
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児					
保育目標		○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子	○元気な子 ○素直な子 ○優しい子 ○感性豊かな子 ○感謝する子				
養護	生命の保持	一人一人の子ども生理的欲求が、十分に満たされるようにする。	保健的で安全な環境を作り、体の状態を細かく観察し、快適に生活できるようにする	保健的で安全な環境を作り、快適に生活できるようにする	食事、排泄、衣類の着脱などがほぼ自立できるようになる	健康や安全な生活に必要な習慣や態度を知る	生活に必要な習慣や態度を身につける	健康や安全に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、そのわけを理解して自主的に行動する					
	情緒の安定	一人一人の子ども生活リズムを大切に生活の安定を図る	一人一人の子ども甘えなどの依存欲求を満たし、情緒の安定を図る	保育士の見守りの中で、簡単な身の回りの事を自分でしようとする	自分の気持ちを安心して表し、情緒の安定した生活ができるようになる	自分の気持ちを安心して表すことができるようになる	情緒が安定した中で自分の気持ちを安心して表しながら、意欲的に活動できるようにする	一人一人の子どもたちに、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする					
教育	健康	首が座り、手足の動きが活発になり、次第に腹這いなど全身の動きが活発になっていく	這う・伝い歩き、立つ、歩くなどの運動機能が発達し、探索活動が活発になる	歩く、走る、飛ぶなどの基本的な運動機能や指先の機能が発達する	基礎的な運動能力が育ち、基本的な動作が人通りできるようになる	全身のバランスをとる能力が発達し、体の動きが巧みになる	運動機能が高まり、運動遊びをしたり、仲間と共に活発に遊ぶ	全身運動が滑らかで巧みになり、自信をもって活動したり、意欲的に挑戦したりする					
	人間関係	一人一人の子どもが示す様々な欲求を、特定の大人に適切に満たされることで愛着関係が育まれる	特定な大人との応答的な関わりにより、情緒的な絆が深まる	自己主張をしながらも、徐々に友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう	身近な大人や友達に親しみを持って関わろうとする。また、自己主張し合う中で、徐々に相手の気持ちに気づくようになる。	友達と一緒に遊ぶことを通して自分の思いや考えを伝え友達にも思いがあることを知る。また、決まりの大切さに気づき守ろうとするようになる	仲間の中の一人としての自覚が生まれ、生活の中で自分の役割を果たしたり、決まりを守ろうとする。	自分の力を十分に発揮しながら、集団の中の一人としての自信をもち充実感や達成感を味わう					
	環境	感覚の働きが豊かになり、身の回りのものに興味や好奇心が増す	身の回りの様々なものに触れ、探索活動を楽しむ	もの周りの物や身近な植物などに触れ、興味や関心を広げる	身の回りの大人の行動や日常の経験を取り入れ、遊びを広げる中で様々な人や物への理解を深める	身近な事物に関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気付く	身近な社会現象・事物に関心を持ち、それらを調べたり、遊びに取り入れられたりする	思考力や認識力が高まり、自然現象や社会現象、文字などへの興味関心が深まる					
	言葉	発生や喃語に優しく語りかけられ、発語の意欲が高まる	話しかけられる心地よさや嬉しさから言葉を使おうとする	言葉のやり取りを楽しんだり、身近な人の模倣をしたり、保育士と一緒に簡単なごっこあそびをする	話し言葉の基礎ができ、盛んに質問するなど知的興味や関心を高める	人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう	言葉によって共通のイメージを持って遊んだり、集団で伝え合うことが増える	友達と関わる中で、協調したりお互いの意見を調整する					
食育	食を営む力の基礎	泣く・表情・身振りで、自分の気持ちや欲求を表すようになる	歌や身近な音楽に親しみ、体を動かすことを楽しむ	興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育士と共に自由に表現する	感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして自分なりに表現しようとする。また、友達と共通したイメージを持って遊びを楽しむ	友達とイメージを共有しながら、感じたことや想像したことを様々な方法で表現する	様々な方法で材料や用具を用いて工夫して表現することを楽しむ						
		安定した人間関係の中で授乳を行い、発達に応じた離乳を開始する	様々な食べ物を見る、つかむ、味わう経験を通して自分で食べたいという気持ちが育つ	楽しい雰囲気の中で自分で食事をしようとする。食事に必要な習慣が少しずつ身につく	自分で食事ができ、友だちと一緒に食べる楽しさを味わう。食事に必要な習慣や態度を身につけていく	身近な人と一緒に楽しくゆったりと食事をする。栽培したものや収穫したり、簡単な調理などを体験する	食生活や遊びの中で食に関わる体験を積み重ね、食べる事を楽しみ、食事に対して興味をもって関わる						
保健		室温湿度を考慮しながら、発汗することで体温調節機能が高める。生活リズムを家庭と連携して整える	人的・物的環境を整え、活動量の増加に伴う怪我や事故を防止する	手洗いの仕方に興味を持ち知ろうとする。動きやすい衣類や靴で活動をする	必要に応じた衣類の調節を自分でする。手洗いうがいの必要性を知り、自分でやろうとする	手洗いうがいなど健康に必要な事柄を理解して習慣となる	風邪予防や体のしくみなど健康に関する事柄を知り、理解しようとする	進級に向けて休息と活動のバランスを整えていく					